

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあるが面白い
いろんな人がいるが楽しい

No. 687

2024年10月

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- ハンセン病のこと、もう少し…… 2
- (続)紅輪サチ子事件のその後 6
- 「死と死」など 12
- ち便りから 16
- 山仕事 (9月、大平) 22
- 10月から郵便料金値上げ 25
- ケ・い・じ・ば・ん 26



泉ゆきを『心はいつも山頭火』
(日本習字普及協会)

9月2/日現在の
会員数 190名

(10月から郵便料金値上げの
ため、今号は、残り半端な
切手をかき集めて使いま
した。)

題 字 敬 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 敬 泉ゆききさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は、いろいろ。

山仕事(9月、大平)

9月1日(水)、晴、暑い。ひとっ早い東京9:27発のこだまにのる。天浜線敷地駅でシルバーパス(年間8000円、1回のごとに+100円)を更新。10月から運賃が値上げされるようだ。

掛川11:58発の天浜線車中で、伊藤康江、原田、山崎さんと合流。敷地駅のホームで正士、久米、若林さんに迎えらる。正士さん、少し疲れやすくなったという。この暑さだもの、たまたもんじやないだろう。それでも、エアコンなしでがんばっているのだから、すごい。

買物の後、茶園の作業にかかると。茶園の作業は、・草刈り

- ・裾刈り(うね間に西側の茶樹から伸びた枝を刈り、動きやすくする)
- ・施肥(化学肥料は使わず、油粕をまく)・耕耘(その後、小型耕耘機で土と油粕を混ぜ合わせる)・均し(耕した後の凹凸を、レーキでならす)。その間に、茶樹の中にのびてきたツルや草をとる。

三手に別れた。大井の原田さんと若林さんが施肥と耕耘を担当。前回、草刈りなどを終えている、家に近い「東だれ」からとりかかると。

常森では、山崎さんが裾刈りを担当。久米さんとぼくは草とり。

そして、竹中さんは一人、自身のハンマーナイフ(小型の自走式草刈機)で井戸谷のクリ園に入る。



以前は、20kg入りの油粕の袋を小脇に抱えて歩きながら散布したが、今はその元気がない。竹中さんの自走式散布機を使わせてもらっている。

草とりは以前、もっぱらお母さんの仕事だった。見ていると、うね間にかがみこみ、茶樹の根元から生えているツルや草を根元から抜いている。こうすれば、草がはびこるのを抑え、大切な肥料分を草に横どりされるのを防ぐことができる。しかし、これは辛い作業だ。お母さんの腰が90度に曲がっているのは、このためだ。

昔の農作業は、こうした腰を曲げる姿勢が多かった。田んぼや畑の草とりがそうだし、昔、ぼくが近所の農家にサツマイモの苗とりの手伝いに行ったときもそうだった。その家の奥さんの腰も、美事に曲がっていた。

ぼくにはどうしてもマネができない。畑の草をとる時は、風呂場の腰掛けを使う。正士さんの茶園で草をとる時は、立ったまま伸びている草やツルをとる。途中で切れることが多いが、深直いはいない。とったツルや草は、耕耘機の回転刃にかきつまめようめめて茶樹の上に置くようにと正士さんに言われているが、ぼくは茶樹をかき分けてうね間に出てこないと押し込んでいる。

夏の終りは、アブがしつこい。

夕方近く、原田さんと井戸ヶ谷ハナ中さんの様子を見に行く。すると、機械の故障を直しているところだった。以前、クリ園を借りていた人が古置を持ち込み、置の稲わらは腐ったものの、置を縫った化せんの糸は腐らず、草刈り機にからみついて往生したものだ。ずいぶん取り除いたが、まだ残っていて機械にからみ、駆動ベルトが切れてしまったのだ。残った草は、ふんぞ刈り払い機で刈りとる。

いつか実がついているクリを原田さんが集め、持ち帰る。康江さんが喜んでたべた。康江さんにスミさんが加わって用意してくれた夕食を、お母さんと一緒に頂く。

(夕) 刺身(アジ、カツオ)、カツオ切り落としの甘辛煮、ニラ玉、叩きキュウリの青り之和え、オクラのゴマ和え、アジのすり身焼き、枝豆、ニラキムチ、サバのへしこ(山崎さんの土産)。そうめんをスミさんの作ったツユで。オクラニラなどは、スミさんが作ったものだ。



内田美智子さん(埼玉・川越市)から、みずすけと腰掛けが届いていた。腰掛けは、膝の具合が悪いばくのために、膝を曲げずにかけられる高さがあり、嬉しかった。(あとに、お便りが)

この夜、スプりに皆さんと一つへやで寝る。むし暑く、ふと晩中汗がとまらない。

9月12日(木)、晴、暑い(もう、書きたくない)。

昨日の続きに出ようとしたところに、水窪(みさくぼ)からご馳走持参で守屋千づる、熊谷道子さんが到着。

東垂れが一段落した原田、若林さんが常森に合流、賑やかになった。静かなところに、エンジン音がひびき渡る。

♪ 草刈り、裾刈り、浜辺のホテル……、3時半頃ラジオできいた ちあきなおみの歌がよみがえる。

山本真由美さん(地域おこし協力隊)も加わり、12名が日除けのある屋外のテーブルで昼食。9月は、スミさんの誕生月とあって、♪ ハッピーバースデーを合唱。

(昼) ハンバーグ(モロコシインゲン、ポテト素揚げ添え)、水窪のフリットはん、ゴーヤーの佃煮、ナスとミョウガの炒め物、へしこ、おからみ(水窪の常備菜?。ナスとミョウガを刻み、トウガラシを加え、醤油漬にしたもの。この汁でめんを食べるといふ)、ゴーヤーとバナナのスムージーに、デザートの水ようかん。甘味好きの正士さんのために、いつも甘い物を用意して下さる水窪の皆さんだ。

午後、真由美さんが加わり、続きの作業。

少し残ったが早目に切り上げ、「養玉(あらたま)の湯」へ。正士さんのおごりだ。夕食は、お母さんに真由美さん、青山さん(谷中ジョウガ、イチジク持参)、袴田さん(クリようかん、切り落とし持参)も一緒に。

(夕) マーボナス、空芯菜ととり肉炒り、春雨サラダ、温野菜サラダ(大根、キャベツ)、餃子(1人4箇所づつ)、スミさんの分をいただき、ぼくは6箇所。

9月13日(金)、(もう、書きたくない)

日は昨日の続き。ぼくは、家の近くでツツジをおおうツル退治。

(昼) ギンギンに冷えたそうめん、スミさんのつゆと薬味の種(ショウガ、ショウガ、オクラ、ネギ、大根おろし)をいただく。ぼくは、2人前食べた。デザートにイチジクのコンポート。

正士、スミ、竹中、若林さんに見送られ、数地駅のホームに立ったところに、伊藤和代さん(下関)から正士さんにメール。パンを30ヶ送ったとのこと。正士さん大喜び。